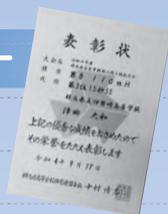


魅力ある高校生にインタビュー



明日へ ジャンプ

No.174

出会いをきっかけに再スタート 目指すは全国の舞台

伊勢崎高等学校 2年 ^{つだ ひろと}津田 大和 さん



「タイムを縮められず苦しい時期もありますが、ふとしたときに大幅にベストタイムを更新できるのが面白いです」とハードル競技の魅力を話す津田さんは、陸上競技部で日々練習に取り組んでいます。中学1年生の時にハードル競技を始めた津田さんですが、高校進学後は競技を続けるつもりはなかったそうです。「高校では自分の実力は通用しないと思っていました。そのため、競技を続けることは考えていませんでしたが、友達に誘われた陸上競技部の見学で『この人についていきたい』と思う先生に出会うことができ、競技を続けることを決めました」

先生との出会いをきっかけに競技を続けることを決意した津田さん。タイムを縮めるために普段の練習から心掛けていることがあると言います。「基本的なことですが、ハードルとハードルとの間を全て決めた歩数で走れるように心掛けています。歩数を合わせるためには、良いフォームを維持することが大事なので、そのための筋力や持久力を上げる練習をしています」



プロフィール

つだ・ひろと

寝ることが好きで、休日は「気づいたら夕方だった」ということも。試合前にはモチベーションを上げるために、バンドの「SEKAI NO OWARI」の曲を聞いている。大会後は自分へのご褒美に「一番くじ」を引いて楽しむ。

日々の努力が実り、昨年9月の群馬県高等学校新人陸上競技大会の110mハードルでは、見事3位に入賞。関東大会への出場を果たしました。「県大会の決勝は、同時にゴールした選手がいたので入賞できるか不安でしたが、ベストタイムを更新して3位に入賞できました。関東大会にも出場できたので、部活動を続けて良かったと思います」

ベストタイムの更新を目指し、練習に取り組む津田さん。最後に今後の目標を聞きました。「練習で一本でも多く走ってタイムを縮めていきます。関東大会だけでなく、全国大会にも出場したいです」